

言語能力を育成する9年間の系統的な指導の工夫

～デジタルを活用した「書く活動」・「伝え合う活動」を柱として～



八王子市立いずみの森義務教育学校

自分の思いや考えを主体的に伝えることができる児童・生徒をめざして



いずみの森義務教育学校の研究概要

令和6年度に実施した八王子市学力定着度調査の結果から、本校の児童・生徒は自分の考えを言語化し表現する能力に課題が見られました。この課題を解決するために義務教育9年間の指導を系統的に行える本校の特色を活かし、児童・生徒の発達段階に応じた言語能力を高めるための授業改善を進めています。令和7年度は、特にデジタル機器を効果的に活用して、児童・生徒の言語能力を高めることができるような授業づくりの工夫を行っています。

また、教員のデジタル活用能力を向上することができるように校内研修の充実を図ったり、お互いの授業を積極的に見合ったりする取組も行っています。



本校は、令和2年4月に八王子市初の義務教育学校として開校し、令和7年度で開校6年目を迎える学校です。令和8年1月現在、第1学年から第9学年まで全1411名の児童・生徒が共に学んでいます。

【学校 HP】



研究主題を実現するための取組

いずみの森俳句大賞

全校の児童・生徒が俳句の創作体験を通して、語彙を豊かにしたり、言語感覚を磨いたりすることを目的として行っている取組です。学級・期ごとに児童・生徒が作品を鑑賞し合い、自分や友だちの表現のよさに気づき、学びを深めています。デジタルを活用した投票も行い、各学級の中からⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期の俳句大賞を決め、校内に掲示もしています。

Ⅲ期大賞 八年
花火散り夏の終わりに影揺れて

Ⅱ期大賞 六年
ソーダ水びんをのぞくと夏の色

Ⅰ期大賞 四年
十五夜の笹の葉揺れる涼しげに



わくわく OJT

「わくわく OJT」とは、全教員がデジタルを活用した授業実践等の取組を行い、各自が取り組んだことを A4 用紙1~2枚程度の報告書にまとめて夏の校内研修会で共有するというものです。各自が作成した報告書を教科部会ごとのグループで発表し合い、デジタルを活用した多様な実践例について学ぶことができました。

わくわくOJT デジタルを活用した授業実践について

令和7年8月8日(金)に実施された八王子市のカキケン(外国語教育研修)にて、英単語を覚える効果的な方法について学びました。Kahootを使って楽しみながら学習を行うものです。

<Kahootとは?>

以下のような問題を通して、誰が早く問題を解けるかを競うゲームです。



最終的に問題を解くのが早かった生徒がランキング形式で表示されます。また、問題ごとにランキングの変動もあるため、楽しく問題を解くことができます。

※わくわくOJTの報告書より抜粋

各教科等における取組

【教科名】国語科

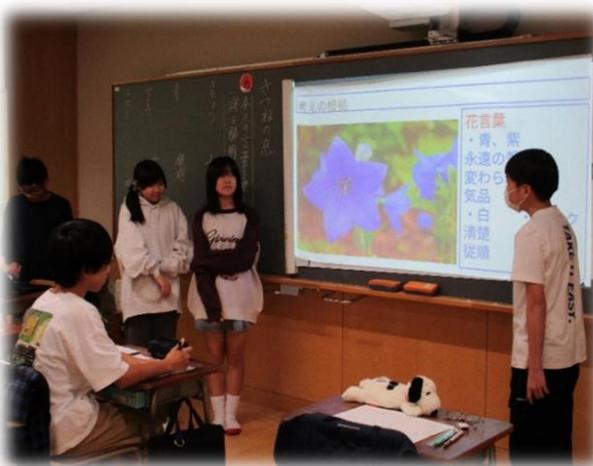
【学年】第6学年

【単元名】「きつねの窓」の謎を探究しよう!

【単元の目標】 本文の謎に対する考えを共有し、その考えに対する意見を発表することでさらに物語への理解を深めることができる。

【主な学習内容】

物語文「きつねの窓」を読み取り、登場人物の行動や心情の変化に着目しながら、物語に秘められた“謎”を児童が自分なりに解き明かすことをめあてとして指導を行いました。授業では、物語全体を通して生まれた疑問をもとに各班で一つ“謎”を設定し、本文中の叙述を根拠にしながら班で話し合い、その謎を解決する活動を行いました。班の中で根拠を示し合いながら意見を交流することで、登場人物の思いや行動の意味を多面的に捉える力が育成されました。



【デジタルの活用】

Google スライドを活用したことで、叙述を基に自分たちの考えを整理・可視化しながらまとめることができ、学習の見通しをもって活動に取り組む姿が見られました。オンライン上で各班のスライドを共有することで、児童は自宅でも他の班の考えを見ることができ、自分の意見をもって授業に参加することができました。また、発表時に視覚的な補助があることで、聞き手にも分かりやすく伝わり、学級全体で理解を深めることができました。これらの活動の過程で、児童は叙述に基づいて自分の考えを説明する力を高めるとともに、課題に対して粘り強く考えを深めようとする姿勢が育まれました。

授業者へのインタビュー

考えを「可視化」することの重要性

今回の学習活動では、班ごとに設定された読みの課題である「謎」を児童が話し合いながら解き明かすことで、読みを深めていきました。その際に、デジタルを活用して児童の考えを「可視化」することで話し合いをスムーズに行うことができました。

【教科名】社会科

【学年】第5学年

【单元名】未来をつくり出す工業生産 3 日本の工業生産の今と未来

【単元の目標】我が国の工業生産の概要や特色、工業生産が国民生活に果たす役割を多角的に考える力、工業生産に見られる課題を把握してその解決に向けて多角的に考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【主な学習内容】

クロームブックのカメラ機能で、身の回りにある工業製品の産地の撮影を行いました。撮影した画像を「オクリンク」の提出ボックスに送信し、クラス全員で共有し気付いたことを話し合いました。また、スライド機能を活用して、工業製品の分類や工業生産額のランキング付けを行いました。デジタル上で工業製品の分類を行い、それを見ながらグループのメンバーが互いに意見を伝え合いました。

また、分類した工業製品をもとに日本の工業生産の特徴について考えました。



【デジタルの活用】

「オクリンク」機能を使って、撮影した写真や個人で考えた意見を全体で共有することで、クラス全員の意見を一度に見ることができ、学習内容への理解をさらに深め、児童の興味・関心を高めることができました。

工業製品の分類をクロームブックのスライド上で行うことで、グループのメンバーがリアルタイムで互いの意見を伝え合うことができ、グループでの話し合いを効果的に行うことができました。

授業者へのインタビュー

話し合いの場面でのデジタルの活用

工業製品の分類をクロームブック上で行ったことでより効率的に分類することができ、話し合いの時間を確保することができました。また、グループで同じ画面を共有しながら分類することで、論点がずれることなく効果的に話し合いを進めることができました。

【教科名】数学科

【学年】第8学年

【単元名】 図形の調べ方

【単元の目標】 平行線と角の性質や多角形の内角・外角の和を利用して角の大きさを求めることができ、証明に用いられることばを適切に使い、証明を表現することができる。

【主な学習内容】

証明のしくみや進め方を学んでいく導入として、三角形の合同条件を用いて、合同な三角形を見付ける活動を行いました。示された図形や問題文から情報を読み取り、根拠をもって等しい角や辺と言えるかどうかを、オクリンプラスを活用して考えました。対応する角や辺の情報が書かれたカードが等しいと言えるかどうかを仕分け、個人の考えをもった後、班での話し合い活動を行いました。生徒は対話していくうちに、感覚的に見ただけで判断してしまっていたことに気づき、学習への理解を深めることができました。



【デジタルの活用】

オクリンプラスを使用することで、生徒は新しい学習内容でも興味をもって主体的に参加することができました。教師が送ったカードを操作するという簡単な作業にすることで、入力する時間を省き思考する時間を確保できました。角や辺が等しいと言えるか判断に迷っていても、それまでの自分の考えを言語化しやすくなり、話し合いを通して自分の考えを修正しやすくなり、どの生徒も深く思考するようすが見られました。

授業者へのインタビュー

デジタルを活用して操作する楽しさ

授業では、教師がデジタル上で送信した角や辺に関する情報カードを「根拠をもって等しい角や辺と言えるかどうか」という視点から生徒が分類して操作しました。デジタルを活用して根拠の有無を分類する操作を行うことで、証明という生徒が苦手意識をもちやすい学習内容への抵抗感を軽減することができました。

【教科名】 理科

【学年】 第5学年

【単元名】 ふりこのきまり

【単元の目標】振り子の運動の規則性を調べ理解する。予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

【主な学習内容】

ふりがが1往復する時間は、ふれ幅・おもりの重さ・ふりこの長さの何によって決まるかを調べるために、グループを組み、各自の予想を基に話し合いを行いました。それぞれの要素についての検証実験を行う際、記録をスプレッドシートに入力しました。また、入力した数値が即時に折れ線グラフとしてデジタル上で表示されるように工夫をしました。各実験後には、表の数値・グラフを基にどのような変化があったかを班で考察し、共有を図りました。



【デジタルの活用】

スプレッドシートは、班ごとにタブを分け、実験を進める中で数値の入力を行いました。入力するとリアルタイムで結果が表示され、数値が他の班と大きく離れているときには再検証する姿が見られました。ふれ幅・おもりの重さでは数値を入力しながら1往復する時間の変化がないこと、ふりこの長さでは大きく数値が変化していくことを理解しました。全体の結果を共有する際には、数値とグラフをスクリーンで投影して見られるようにしました。考察の場面では、数値やグラフを見ながら数値が変化した理由について考える場面が見られ根拠をもって話し合うことができました。

授業者へのインタビュー

話し合う時間を確保するためのデジタルの活用

今回の授業では、実験結果の数値をエクセルに入力しデジタル上で即時にグラフが表示される工夫を行いました。実験結果の考察を話し合う時間の確保という点においても、グラフをデジタルで表すという方法はとても効果的でした。

【教科名】家庭科

【学年】第5学年

【題材名】生活を支えるお金と物

【題材の目標】買い物に必要な情報を収集、整理し商品を比較・検討してよりよい買い物をすることができる。

【主な学習内容】

授業のねらいは、「エシカル消費や、商品の上手な選び方のポイントについて考え、計画的に買い物をすることの大切さに気付かせる」です。実物のウイナー5種の中から比較・検討させ、買いたいものとその理由について Google フォームで児童に回答をさせ、その回答内容をグループで共有し、意見を発表しました。

授業者へのインタビュー

児童の考え方の傾向を明らかにする Google フォームの活用

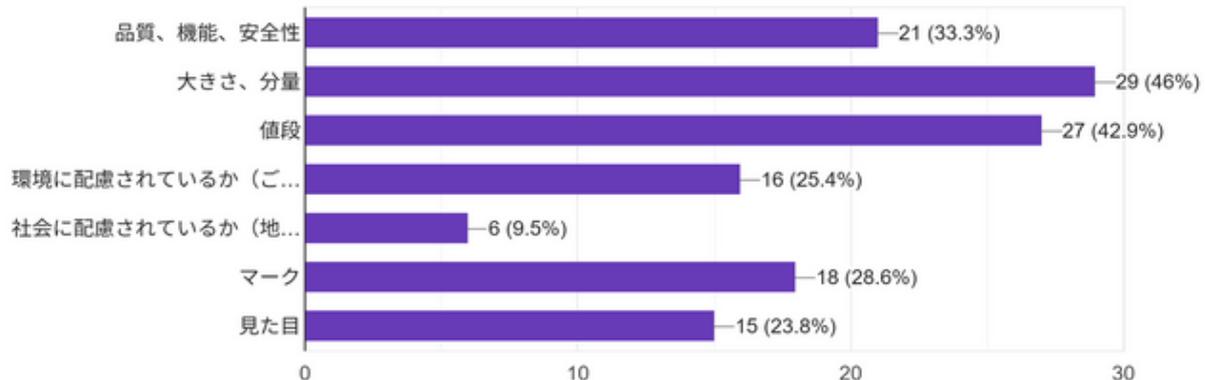
「ウイナーを買うときに大切にしたい観点は何かですか。」という質問への回答を Google フォームで集約したことで、クラスの児童が消費に関してどのような考えを持っているのかという傾向がグラフに表示され明確になりました。グループでの話し合いを経て、クラスの考え方がどのように変容したのか見ることもできました。

【デジタルの活用】

Google フォームの児童の回答には、単に「表示されている値段が安いもの」を選ぶのではなく、「作っているメーカーが大切」「原材料を見ることが大切」「環境に配慮されている商品がよい」など、さまざまな意見が児童から出されました。クラスの児童がどのような意見を持っているのかという傾向が把握しやすくなりました。

質問① ウイナーを買うときに大切にしたい観点は何か。

63件の回答



【教科名】 英語科

【学年】 第9学年

【単元名】 Project 1 旅行プランの提案

【単元の目標】 ALT の好みに合う旅行プランを提案するために、ALT のしたいことや好きなことについて書かれたプロフィールを読み、旅行の行程などを、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。

【主な学習内容】

ALT のプロフィールを読み、ALT の興味を引くような旅行の行程を考え、作成したメモをもとに、発表原稿をクロームブック上で作成しました。教師が生徒の習熟に応じた原稿のモデルを提示し、自身の習熟度に応じたものを選ぶことで、すべての生徒が主体的に活動に取り組むことができるよう工夫しました。その後、生徒が作成した原稿をクロームブック上で共有し、グループ内で発表し合いました。生徒たちは、ALT の希望に沿った提案になっているか、魅力が伝わる内容構成になっているかなどの視点で、グループ内でアドバイスをし合いながら原稿の修正を行いました。



【デジタルの活用】

オンライン上に原稿のモデルを提示することで、生徒が自分の習熟の程度に応じたワークシートを選択し、英文の作成にスムーズに取り組むことができました。また、作成した原稿を読み合うことで、友だちの記述内容を参考にしながら、自身の表現を見直したり、新たな視点で旅行プランを考えたりすることができました。アドバイスをを行う際は、クロームブック上に共有したワークシートに互いにコメントを書き込むようにしました。自身の表現を修正したり追加したりする際に、友だちのフィードバックをいつでも参照することができ、試行錯誤が容易になりました。

授業者へのインタビュー

生徒が「自ら選択する」重要性

クロームブック上に原稿のモデルを示したワークシートを複数提示したことで、生徒は自身の習熟度に応じたワークシートを「自ら選択すること」ができました。このことで、英語が苦手な生徒も最後まで粘り強く原稿を作成することができ、友だちからのアドバイスをもらってより充実した学びを実現することができました。

【教科名】道徳科 【学年】第3学年・第6学年

デジタルを使った効果的な教材提示 第3学年「われた花びん」より

単元名：「われた花びん」(B 正直、誠実)
ねらい：自分の過ちを素直に認め、正直に生きようとする心情を養う。



授業者へのインタビュー

児童が作品世界へ入り込むための工夫

教材提示をデジタルで行い、BGMも流しながら教科書を範読しました。このことにより、児童は作品の世界に没入し、自分事として考えることができました。その結果、より深く登場人物の気持ちを考えることができ、活発な意見交換につながりました。

デジタルを活用した効果的な意見交流 第6学年「雨上がりの日のこと」より

単元名：「雨上がりの日のこと」(A 個性の伸長)
ねらい：自分の特徴を知り、短所を改め長所を伸ばそうとする態度を育てる。



授業者へのインタビュー

児童が安心して発言できるようなデジタルの活用

学年が上がるにつれ発言する児童が減るため、学習用端末を活用し、一人ひとりが自分の意見を発信できるようにしました。Google クラウドの質問機能を使い、児童が簡単に入力できるように工夫しました。児童が互いにどんな意見をもっているか共有できるようにしました。また、児童の意見をもとに授業者は意図的な指名をすることができ、学習に広がりや深まりが生まれました。ただし、自己の振り返りについては、相手に見られたくない内容もあるので、全体への共有機能はオフにするといった配慮が必要です。

デジタルを活用した授業実践例

～理科の実践紹介～

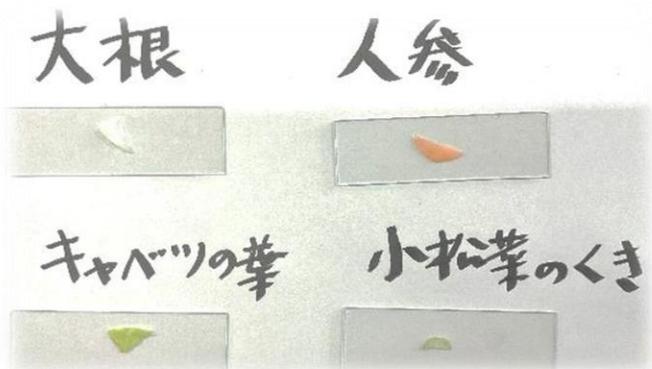
実践例：多様な生物の細胞を観察する学習におけるデジタルの活用

理科の学びにおいては、「日常の体験、実体験、実物」が、興味や関心を育て、教科の有用性を実感させるため、何より大切だと考えます。そのため、多様な生物の細胞を観察する学習では、リアルでできるものは基本的にはリアルを優先し、リアルでは不可能なものやデジタルを活用してよりよくなるものに関してデジタルを活用しました。

多様な動物の細胞を観察（植物のリアルな細胞&インターネットの動物の細胞写真）

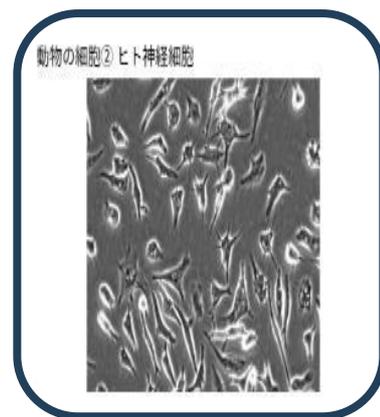
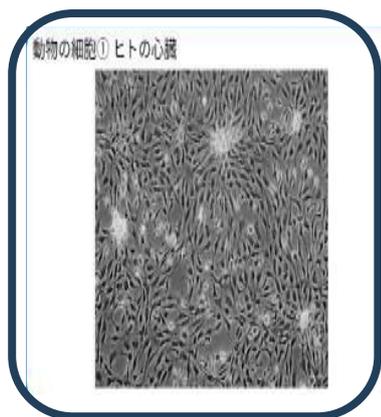
●リアル

植物の細胞の観察（野菜）



●デジタル

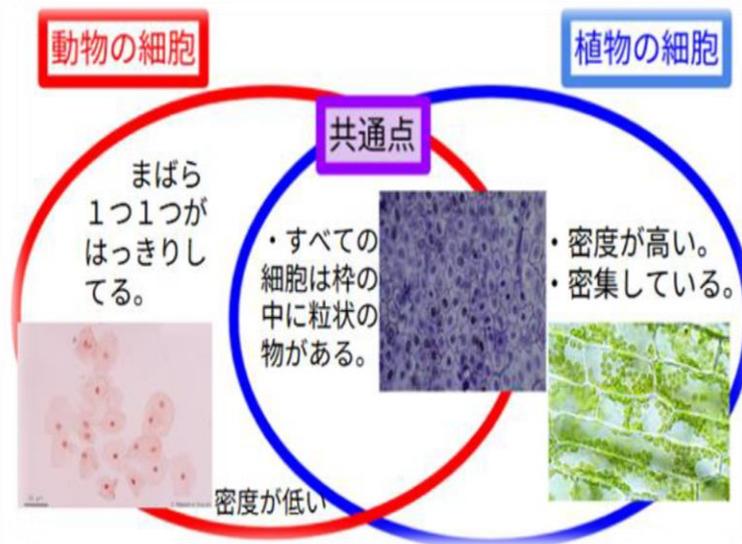
動物の細胞写真



実践の成果

リアルで観察した植物の細胞と個人でインターネットを活用して調べた動物の細胞写真について気付いたことをスライドにまとめました。まとめたスライドを小グループで共有し、植物の細胞の特徴と動物の細胞の特徴の共通点について話し合い、右のようなベン図に気付いたことを整理しました。

リアルとデジタルを併用することで、生徒一人ひとりが興味・関心をもって植物の細胞と動物の細胞の違いについて学ぶことができました。



【研究の成果】

- 1 デジタルを効果的に活用することにより、第1学年～第9学年の幅広い発達段階の児童・生徒が主体的に自分の考えを表現することができるようになってきた。
- 2 自分の意見と友だちの意見を交流する言語活動を全教科において積極的に取り入れることで、児童・生徒同士の対話が活発になってきた。



【研究の課題】

- 1 児童・生徒の言語能力を高め、豊かな表現力を育むために、どの学年においても語彙力をさらに育成していく必要がある。
- 2 児童・生徒が自らの学びをデザインするためにデジタルを効果的に活用していく必要がある。

